

平成 20 年度

「立ち上がる農山漁村 ～新たな力～」

選定候補概要書

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【大学】

1. 都道府県、市町村 石川県かなざわし金沢市

2. 団体名 金沢大学法学部知的財産法ゼミ

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：沢野ごぼう生産組合（事例No. 15）

活動名：献上品沢野ごぼう増産とグリーン・ツーリズム

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

平成18年度・19年度金沢大学学長戦略経費プロジェクトとして地域ブランディングの対象として「沢野ごぼう」に関わり、平成20年度大学コンソーシアム石川の事業として継続して協力し、ごぼうの栽培、地域活動（収穫祭、外国人との交流活動）への参加、商標出願予定名称の周知性証明書書類の収集・作成等を実施することとしている。これにより、沢野地域は、近隣地域への栽培指導協力、能登全体でのごぼうブランドの確立等に踏み出している。

◇協力している活動（沢野ごぼう生産組合）の概要

伝統あるごぼうを継承しなければいけないと思い、平成15年に沢野ごぼう愛好会を、翌16年に沢野ごぼう生産組合を農家・非農家の25名で立ち上げた。都市住民との交流を図るためグリーン・ツーリズムの推進、加工食品会社と連携しすることで一年中ごぼうが楽しめる沢野ごぼうの商品化、ごぼう女神による宣伝活動やホームページの開設やロゴマークの商標を平成19年度取得し、ブランド化を推進している。

◇協力のポイント

・「沢野ごぼう」ブランドの強みである伝統とその継承という点を活かすため、外部からの押しつけではなく、地元の方々の意志が反映されるように、時間をかけて活動協力している点がポイントである。

・商標登録にあたって単に商標出願手続の説明を行うのではなく、本当に商標取得が必要なのか等について定期的に議論を行っている。

・沢野地区の人々もこれに応え、加工製品の独自開発、ブランド展開計画作成を地元主体で行っており、新しい発想を持っているという学生の良い部分を活かす工夫を行っている。

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【企業】

1. 都道府県、市町村 愛知県刈谷市かりやし

2. 団体名 アイシン精機株式会社

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：根羽村（事例No.18）

活動名：矢作川下流住民との「親子わんぱく体験隊」協働活動

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

近年問題となっている地球の温暖化防止のため、CO2の削減や森林保護など環境問題を企業として取組む一環として、平成16年度に矢作川の源流に位置する根羽村と下流域に位置するアイシン精機（株）、アイシン・エイ・ダブリュ（株）2社と森林の里親促進事業による協定を締結。平成19年からは、アイシン高丘（株）、アイシン化工（株）、アイシン・エーアイ（株）の3社も加わり、5社から年間300万円を寄付し、根羽村の森林整備費を支援。

平成16年度からは社員環境教育と根羽村住民との交流を深めることを目的として、様々な自然・森林・林業体験を行う「根羽村親子わんぱく体験隊」を実施。その参加費は根羽村水源の郷基金に寄付し、環境保全に関する各事業に活用されている。

◇協力している活動（根羽村）の概要

矢作川の源流部に位置する根羽村と下流に住んでいる住民との交流を深め、さらには森林ビジネスの発展に結びつけていくことを目的として、様々な自然・森林・林業体験を行う「根羽村親子わんぱく体験隊」を企画した。

村の総合観光施設であるネバーランドや、檜原研修所、矢作川支流である檜原川、村有林などの各フィールドを活用し、四季折々の美しい山村風景の中で体験活動を行っている。こうした活動を通じて地元住民と交流ができるようにするため、村の農林業を活用した郷土料理や木工クラフトの教室、ツリークライミングを企画し、村の婦人会、森林組合や村民の協力も得て人的交流を行ってきた。

◇協力のポイント

・源流と下流域という、矢作川が結びつけた交流により水源・森林保全や自然エネルギーの活用など環境保全活動がなされている。

・アイシン精機（株）ほか4社からの年間300万円の協力金は根羽村の（間伐）森林整備事業に活用されている。平成19年度においては318haの間伐がなされ、また、林道開設においても3路線1,496mが開設された。

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【商工会】

1. 都道府県、市町村 長野県池田町

2. 団体名 池田町商工会

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：金の鈴まごころ会（事例No. 19）

活動名：花とハーブの町の新たな流通

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

池田町は「花とハーブ」の町を推進しており、池田町商工会が平成11年から地域資源活用の調査事業に取組み、地域資源を活用する調査研究の中でフランス料理店のシェフのアドバイスからハーブ・野菜の食材提供が始まった。平成13年から「北アルプス料理人協会」役員やレストランを訪問し料理長と懇談を通じてニーズ等の調査を実施した。その結果、使われているハーブの多くが池田町の農家で栽培されており、野菜の栽培についても対応することが可能であることがわかり、毎週配達を行うこととした。このような活動を経て、平成15年に任意団体「金の鈴まごころ会」が発足。発足後も情報の提供や運営支援について協力を行っている。

◇協力している活動（金の鈴まごころ会）の概要

昭和61年、池田町生活改善グループ連絡協議会を設立。その後、商工会女性部の仲間とともに、農業振興と商店街の活性化を図るため、平成10年より金の鈴朝市を開設した。平成12年にはホテル・レストランへのハーブと農産物の直販を開始したが、池田町が「花とハーブ」の町を推進していることと、農家が食材のハーブをすでに栽培し、これらを活かしたいと考えていたこと、商工会の地域資源を活かす調査研究事業とがマッチングし、池田町のハーブ・野菜の食材提供事業が平成13年から始まった。

◇協力のポイント

・池田町の「花とハーブの町」づくりの推進と、農家が既にハーブを食材として栽培していたことに着目し、これらをレストランシェフのニーズにマッチングさせたこと。

・少ないロットで様々な種類のハーブ・野菜を栽培し、安定的に供給する体制や注文と配達の仕事づくり。

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【観光協会】

1. 都道府県、市町村 愛知県南知多町

2. 団体名 日間賀島観光協会

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：日間賀島漁業協同組合（事例No. 22）

活動名：漁業と観光業の相互扶助による明るい島づくり

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

人を呼び込み、サービスを提供するのが観光協会の役割で、一方で、新鮮な、島らしい魚介類を提供するのが漁協の役割である。そのような考えのもと、日間賀島漁協の取組に協力する背景としては、小さな離島でも人を呼び込める、魅力ある島にしたいとの思いが一致したことが大きなきっかけである。

◇協力している活動（日間賀島漁業協同組合）の概要

日間賀島漁業組合は、大正元年に島での持続可能な漁業経営と発展のために設立。その後、漁業生産量の増大を目指し、トラフグ、アサリ等もともと地元で獲れていた5種の魚介類の中間育成や放流による資源量確保の取り組みを継続して行っている。

一方で輸入品の増加による単価の低迷等により、漁獲高は減少傾向にあった。このため、地元観光協会と連携し、日間賀島産魚介類の付加価値向上を図るため、ブランド化を推進することによる単価向上と地域の魅力向上に努めている。

日間賀島観光協会と共同で、島内漁港で年に6～7回、日間賀島産の旬の魚介類を使った無料試食会を開催し新鮮な魚介類の美味しさを観光客にアピール

◇協力のポイント

・観光業の持つ集客力と海の専門家である漁協が協力することによって小学生・中学生の体験漁業の実施ができ、それは子供たちへ漁業の苦労と魚を獲る喜びを伝えている。

・観光業として、民宿、旅館の宿泊客には地元産の魚介類を提供しており、新鮮な、旬の魚介類の美味しさを味わってもらうためには漁協との協力と連携は不可欠である。

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【商店街振興組合】

1. 都道府県、市町村 大阪府守口市 もりぐちし

2. 団体名 土居駅前通商店街振興組合

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：かつらぎ町観光協会（事例No. 31）

活動名：都市と農山漁村のネットワーク事業

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

和歌山県かつらぎ町と守口市は友好提携を締結していたこともあり、かつらぎ町の農山村地域の活性化を図ろうという考えと守口市の市民に充実した余暇を提供できる潤いのある空間（ふるさと）を探していた相互の思惑が一致したことで、平成18年7月8日にかつらぎ町・かつらぎ町観光協会・守口市・守口市土居駅前通商店街振興組合が協定を結び、都市と農山村のネットワーク事業が一気に進展した。

◇協力している活動（かつらぎ町観光協会）の概要

かつらぎ町は、定住人口が減少しているが、都市との交流人口を増やすことで、農山村地域の活性化を図ろうと考え、かつらぎ町観光協会は、かつらぎ町の魅力や特産物をPRできる拠点基地として、都市部に観光案内を兼ねたアンテナショップの開設を考えていた。一方、守口市は自然環境に乏しいことから、市民に充実した余暇を提供できる潤いのある空間（ふるさと）を探しており、商業面においても、沈滞傾向にある既存商店街の活性化施策を考えていた。平成18年に関係者間で協定を結び、商店街の空き店舗を利用してかつらぎ町観光案内所を設置したり、府県間を越えた様々な地域交流イベントを実施している。

◇協力のポイント

・大阪府守口市は旧花園村と友好関係にあったことから、平成17年10月に旧花園村とかつらぎ町が合併すると同時に、新かつらぎ町と友好提携を締結することで継続的な取組みとして推進。

・「都市住民が農山村に対して何を求めているのか」をテーマとして、守口市及び周辺都市住民を対象とした住民意識調査を実施し、交流事業の推進に役立てている。

平成20年度「立ち上がる農山漁村～新たな力～」選定候補概要書

◎団体の種類：【大学】

1. 都道府県、市町村 沖縄県西原町

2. 団体名 琉球大学農学部家畜生理学研究室 山羊ミルク研究チーム

3. 取組概要等

◇支援・協力を行っている団体名及び活動の名称

団体名：農業生産法人株式会社はごろも牧場（事例No. 46）

活動名：産学連携による山羊乳ビジネスの推進

◇支援・協力をを行うこととなった経緯

沖縄ベンチャービジネスサポート事業をとおした(株)はごろも牧場との産学連携により、山羊乳の機能性の解明と機能性を活用した健康補助食品の開発等に取り組んだ。研究チームでは、研究開発のみではなく製品開発戦略の立案等についても包括的に支援。

また、沖縄イノベーション創出事業・顕在化ステージでは研究リーダーを担当し、研究開発の総括を行った。

◇協力している活動（農業生産法人株式会社はごろも牧場）の概要

建設業界の不振を予測し、異業種参入への考えをめぐらせていたとき、沖縄市において開催された全国山羊サミットで山羊乳の機能性、可能性についての講演を聞いたことがきっかけとなり、有限会社はごろも牧場を設立。琉球大学との産学連携の推進により山羊乳中の脂質に含まれる機能性脂質の分析と抽出脂肪を原料とする健康補助食品の開発に取り組んだ。

また、山羊に与える飼料の改良によりミルク中に含まれる機能性成分である共役リノール酸の含有量を2倍以上に増加させることに成功するなど沖縄の地域資源である山羊を活用している。

◇協力のポイント

・(株)はごろも牧場を支援するにあたっては、作業負荷や財務状況、収益性も含めた詳細なヒアリングを実施し、常に事業化を念頭においた研究開発を行った。

・琉球大学産学連携推進機構の協力を得ながら、沖縄県内外の公的支援機関や金融機関との幅広いマッチングを行い、研究開発だけではなく出口側への橋渡しについても積極的に支援した。